# 北海道考古学会だより

第 115 号

2016.7.28

#### 目 次

第2回北海道考古学会賞・北海道考古学会奨励賞表彰式	1
2016年度 北海道考古学会第53回総会報告	2
2016年度 研究大会報告「北海道における近現代考古学の今後」	7
遺跡見学会のご案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
北海道考古学会賞・北海道考古学会奨励賞の募集ついて	9
月例研究会のお知らせ	.0
会誌編集委員の選任について····································	. 1
「投稿規定・原稿体裁」が新しくなります····································	.1
事務連絡	. 1
入退会者のお知らせ	. 1
会費納入についてのお願い	١.
会誌編集委員会からのお知らせ	2

# 第2回北海道考古学会賞を菊池俊彦氏、奨励賞を松田宏介氏に贈呈

4月30日、登別市民会館にて、第2回北海道考古学会・学会賞ならびに北海道考古学会奨励賞の表彰 式が行われました。

この賞の目的は、今日まで会を支えてこられた方々を顕彰し、またこれから会を支えてくださる方を 発掘することにあります。澤井副会長を選考委員長とする選考委員会が複数回実施され、自薦他薦の応 募から北海道考古学会賞は菊池俊彦氏に、奨励賞は松田宏介氏に贈呈されました。

授賞理由 (要旨) は次の通りです。

#### 菊池俊彦氏

菊池氏は1943(昭和18)年に群馬県伊勢崎市に生まれ、北海道大大学文学部(東洋史学)に入学後は 大場利夫氏らに師事され、本格的に北方地域の古代文化の研究を開始されました。1967(昭和42)年、 北海道大学を卒業、引き続き北海道大学文学部で助手として勤務されながら、考古学・東洋史学の立場 からオホーツク文化の起源やアムール河中・上流域の諸文化との比較研究に多大の貢献をされました。 氏の研究目的は、環オホーツク海周辺域の古代諸文化の解明と相互関係を追求することにあり、北海道 に出現したオホーツク文化やアイヌ文化を従来にない視点から位置づけられました。1995(平成7)年



には長年の研究成果を『北東アジア古代文化の研究』(北大図書刊行会)として上梓(第10回濱田青陵賞受賞)され、名実ともに列島北部地域と北東アジアの関係史の第一人者として、その地位を確たるものとされています。その後も『環オホーツク海古代文化の研究』(北大図書刊行会2004)、『オホーツクの古代史』(平凡社2009)を著されました。北大を定年退職された現在も論文等の執筆、講演等に活躍されています。

また、1967~1979年の12年の長きにわたり、大場利夫初代会長のもとで北海道考古学会の事務局を一手に引き受け、設立間もない本学会の運営に多大な貢献をされたことも特筆されます。

## 松田宏介氏

松田氏は北海道室蘭市生まれ、北海道大学院文学研究科を修了され、現在は室蘭市教育委員会に勤務 されています。

松田氏は続縄文文化期を主な研究対象としています。松田氏の研究の特色は、資料の緻密で地道な分

析と理論的な議論の展開にあります。豊浦町礼文華貝塚・小幌洞窟・江別市旧町村農場・えりも町東歌別など続縄文文化期の基準土器資料に今日的な再検討と精緻な資料提示を行い、学界に貢献されています。その一方で、先行研究に緻密な分析を加え、従前認識されていなかったその枠組みや視点について刺激的な議論を展開してきました。また同時期の北海道外の様相も視野に入れ、今後の研究の方向性を提示し、続縄文期の土器研究における議論をリードしています。

学位論文「続縄文期における土器型式圏の変動とその背景」で2008(平成20)年に北海道大学から博士号を授与された後も、



室蘭市教育委員会に勤務するかたわら地道な研究活動を継続しており、更なる研究の進展が大いに期待されます。

## 2016年度 北海道考古学会第53回総会報告

4月30日11時より、登別市民会館2階中ホールにて本年度の定期総会が開催されました。会員数360名に対し、本人出席43名、委任状出席110名、合計153名で、総会成立要件である、会員数の5分の1以上の出席を得たため、総会は成立しました。議長には第5地区の角田隆志会員を選出し、下記の議案について審議されました。この結果、下記の原案通り承認されましたのでご報告いたします。

#### 1号議案 2015年度会務報告

#### (1) 事業報告

#### ア 第52回定期総会・研究大会

期 日:2015年5月9日(土)

易 所:北海道大学 学術交流会館

総 会:2014年度会務報告,2015年度会務計画案 研究大会:テーマ「『サハリン・千島ルート』再考」

参 加 者:92名

#### イ 運営委員会

回数	開催日	主たる議題
第1回	6月20日	運営委員業務担当など
第2回	7月18日	遺跡見学会・月例研究会など
第3回	9月19日	遺跡見学会・遺跡報告会など
第4回	10月17日	遺跡報告会・研究大会・だよりなど
第5回	11月21日	遺跡報告会・研究大会など
第6回	1月23日	研究大会・学会賞など
第7回	2月20日	研究大会・学会賞・だよりなど
第8回	3月19日	学会賞・研究大会・総会準備など

#### ウ 月例研究会

第1回:6月20日(北海道大学人文·社会科学総合教育研究棟W517教室)

- ①A.V. プタシンスキー氏 (カムチャッカ国立大学) 「松輪島、幌筵島、占守島における考古学的調査 (2010-2014年)」
- ②中村耕作氏(國學院大學栃木短期大学)「縄文時代後期後半における廃屋墓と 竪穴住居床面出土土器|

第2回:7月18日(北海道大学人文·社会科学総合教育研究棟W517教室)

- ①高瀬克範氏(北海道大学大学院文学研究科)「宮城県山元町中筋遺跡における 弥生稲作の検討-石器使用痕分析とレプリカ法-|
- 第3回:9月19日(北海道大学人文·社会科学総合教育研究棟W309教室)
  - ①大塚宜明・飯田茂雄・金成太郎・長井雅史・矢原史希・櫻井宏樹氏 「置戸山黒 耀石原産地遺跡の発見」
  - ②大島直行氏 「縄文時代は『定住』社会なのか? |
- 第4回:10月17日(北海道大学人文·社会科学総合教育研究棟W517教室)

①宮塚義人氏(衛宮塚文化財研究所)「十和田a、白頭山苫小牧火山灰と馬蹄形圧 痕文土器」

第5回:11月21日(北海道大学人文·社会科学総合教育研究棟W517教室)

①三谷智広氏(洞爺湖町教育委員会)「洞爺湖町入江貝塚出土イルカ類遺存体の 網察 |

第6回:1月23日(北海道大学人文·社会科学総合教育研究棟W517教室)

①木村英明氏 「縄文時代後期後半から続縄文時代初頭の埋葬様式―時差埋葬(追葬)、あるやなしや|

第7回:2月20日(北海道大学人文·社会科学総合教育研究棟W517教室)

- ①時田太一郎氏(㈱シン技術コンサル)「道南の縄文時代後期初頭を考える―北 斗市茂辺地 4 遺跡の事例から―|
- ②鈴木建治氏(北海道大学国際本部)「北海道オホーツク沿岸地域とサハリン島 における内耳土器|
- 第8回:3月19日(北海道大学人文·社会科学総合教育研究棟W517教室)
  - ①高瀬克範氏(北海道大学大学院文学研究科)「ステン・ベルグマンコレクション(ストックホルム)の日本・千島・カムチャッカ出土考古資料」
  - ②大島直行氏 「松木武彦著『美の考古学』を読む |

#### 工 遺跡見学会

期 日:2015年8月29日(土)

場 所:厚真町・新冠町・新ひだか町

テーマ:厚真町の遺跡発掘調査現場と新ひだか町・新冠町

参加者:38名

#### オ 遺跡調査報告会

期 日:2015年12月12日(土)

場 所:北海道大学学術交流会館小講堂 内 容:道内遺跡の発掘調査の紹介・質疑

参 加 者:105名

#### カ 連絡紙『北海道考古学会だより』の発行

112号:2015年7月31日発行 113号:2015年11月10日発行 114号:2016年2月29日発行

#### キ 学会ホームページ

2016年3月まで(12ヶ月間)更新回数:22回

2016年11月17日より新ページへ移行 URL: http://haa.main.ip/cms/

#### ク 会誌編集委員会の活動

会誌『北海道考古学』第52輯の発行(2016年3月31日発行 450部)

#### ケ 特別委員会の活動

#### (2) 2015年度収支決算報告

#### 収 入

項	目	費	Image: section of the	予算額(A)	決算額(B)	増 ▲減	備考
会	費	会	費	1,500,000	1,730,000	230,000	2016年度会費…5,000円×215件 滞納会費…5,000円×123件 2017年度以降会費…5,000円×8件
		研究大会		100,000	93,000	<b>▲</b> 7,000	研究大会資料集販売 93部×1,000円
	ĺ	遺跡見学	会収入	200,000	194,000	<b>▲</b> 6,000	参加費4000円×38名十昼食代1000円×42名
事 業	収入	遺跡調査執	告会収入	100,000	107,000	7,000	遺跡調査報告会資料集販売 107部×1,000円
		会誌等販売	₹ 収入	80,000	88,846	8,846	会誌・資料集販売
		小	計	480,000	482,846	2,846	
広告#	料収入			0	0	0	
雑繰走	入			370	12	<b>▲</b> 358	利息
繰走	业 金			1,349,630	1,349,630	0	
基金網	<b>朵入金</b>	特 別 🏻	仅 入	0	0	0	
特会合	収入	特別会計	†収入	0	0	0	
合	計			3,330,000	3,562,488	232,488	

## 支 出

項 目	費目	予算額(A)	決算額(B)	残(▲超過)額	備考
	研究大会費	450,000	422,746	27, 254	要旨印刷・講師費用弁償・会場使 用料等
	遺跡見学会費	145,000	185,630	<b>4</b> 0,630	貸し切りバス等/振込み手数料
	研究会費	60,000	16,632	43, 368	案内発送、研究会共催費、発表者 交通費
事業支出	遺跡調査報告会費	390,000	386,802	3,198	資料集印刷・発表者費用弁償・会 場使用料等
	会誌印刷費	780,000	646,596	133, 404	第52輯 450部/振込み手数料
	だより印刷費	200,000	135, 216	64,784	112号・113号・114号/振込み手 数料
	ホームページ費	300,000	290,064	9,936	ホームページ更新費、プロバイ ダー契約料、更新・維持管理費
	小 計	2,325,000	2,083,686	241,314	
	報償費 (総会費)	50,000	50,000	0	3 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3
	委員会費	150,000	142,080	7,920	運営委員会・編集委員会出席用交通費
	消耗品費	40,000	16,682	23, 318	文房具代・コピー代等
事務支出	通信費	250,000	157, 123	92,877	会誌・だより発送費・葉書切手代 金等含む
	賃 金	100,000	47,000	53,000	会誌・だより等の発送・その他事 務処理(1hあたり1,000円×47h)
	小 計	590,000	412,885	177,115	
特別支出		20,000	0	20,000	会費返金分
基金積立金		60,000	60,000	0	
予 備 費		335,000	0	335,000	
合 計		3,330,000	2,556,571	773, 429	

# 2015年度決算

項	目		費	目		予算額(A)	決算額(B)	差引額(B-A)	備考	
		収	入	総	計	3,330,000	3,562,488	232,488		
		支	出	総	計	3,330,000	2,556,571	<b>1</b> 773, 429		
決算額	<b>夏差引</b>		収入	総計	( B	)一支出総	計(B)	1,005,917		

# 2015年度北海道考古学会基金会計

項		費目	支出額	基金積立額	基金総額	備考
		名取氏寄付金		420,000	420,000	
	石川氏寄付金		320,000	740,000		
		佐藤氏斉藤氏寄付金		100,000	840,000	
		北構保男氏寄付金		20,000	860,000	平成17年 5 月29日10,000円送金 平成18年 3 月22日10,000円入金
基	金	宮下正司氏寄付金		10,000	870,000	平成20年3月31日10,000円入金
		臨時積立金		200,000	1,070,000	
		50周年記念研究大会積立金		250,000	1,320,000	2012年度積立
		保存対策費積立金		100,000	1,420,000	2012年度積立(過年度支出分補填)
		保存対策費積立金		100,000	1,520,000	2013年度積立(過年度支出分補填)
		60周年記念研究大会積立金		60,000	1,580,000	
	合	計			1,580,000	
		南茅部町埋蔵文化財調 査団事務所被災支援金	77,000		1,503,000	2003年度支出
<b>湿左莊士</b>	- ш	鷲の木5遺跡保存対策費	160,000		1,343,000	2003年度支出
過年度支	. Щ	鷲の木5遺跡保存対策費	60,000		1,283,000	
		40周年記念研究大会費	240,000		1,043,000	2003年度支出
	50周年記念研究大会費	250,000		793,000	2013年度支出	
	合	計	787,000			
		基金	浅 高		793,000	

#### (3) 2015年度監査報告

北海道考古学会の2015年度会計の監査を実施した結果、適正に処理されていることを確認したので報告いたします。

2016年4月30日 監査委員 工藤 義衛 @

監査委員 園部 真幸 印

#### 2号議案 2016年度会務計画

## (1) 事業計画案

#### ア 基本方針

- ① 北海道考古学の発展のため、会誌の充実、大会・月例研究会・遺跡報告会・遺跡見学会などの積極的な開催を図る。
- ② 考古学研究を取り巻く環境が日々変化していく中で、諸課題に取り組むための「特別委員会」を設置するなど、研究環境の変化に機動的に対処しうる体制をとる。
- ③ だより・ホームページなどを通じて会の活動や研究成果を情報提供する。
- ④ 会費納入の呼びかけと適正な予算執行により、財務基盤の安定化を図る。

#### イ 2016年度事業計画

① 研究大会

日 時:2016年4月30日(土) 13~18時

易 所:登別市民会館 中ホール

テーマ: 「北海道における近現代考古学の今後」

事例報告:田才雅彦氏、石渡一人氏、菅野修広氏、野村祐一氏、黒尾和久氏

討 論:司会 村本周三氏

② 遺跡見学会

日 時:8月予定

③ 遺跡報告会

日 時:2016年12月10日(土)

場 所:北海道大学学術交流会館小講堂

4 月例研究会

時

開 催:年8回、各回15時開始(予定)

期:2016年6月18日、7月9日、9月17日、10月15日、11月19日、

(予定) 2017年1月21日、2月18日、3月18日

⑤ 会誌「北海道考古学|第53輯(貝塚特集号)の発行

発 行:年1回

時 期:2017年3月 450部発行

⑥ 連絡誌「北海道考古学会だより」の発行

発 行:年3回(第115号、第116号、第117号)

期:2016年7月、11月、2017年2月

(7) ホームページの管理運営

#### (2) 2016年度予算案

## 収 入

項目	費目	2016年度予算額(A)	2015年度決算額(B)	増 ▲減	備考
会 費	会 費	1,600,000	1,730,000	<b>130,000</b>	5,000円×320件
	研究大会収入	100,000	93,000	7,000	研究大会資料集販売 100部×1,000円
	遺跡見学会収入	200,000	194,000	6,000	4,000円×50名(貸切バス1台)
事業 収入	遺跡調査報告会収入	100,000	107,000	<b>▲</b> 7,000	遺跡調査報告会資料集販売 100 部×1,000円
	会誌等販売 収入	84,000	88,846	<b>4</b> ,846	会誌・資料集販売
	小 計	484,000	482,846	1,154	
広告料収入		0	0	0	
雑 入		83	12	71	利息など
雑 入   繰 越   基金繰入金		1,005,917	1,349,630	<b>▲</b> 343,713	
基金繰入金		0	0	0	
特会収入		0	0	0	
合 計		3,090,000	3,562,488	<b>472,488</b>	

## 支 出

項目	費目	2016年度予算額(A)	2015年度決算額(B)	増 ▲減	備考
	研究大会費	450,000	422,746	27,254	要旨印刷・講師費用弁償・会場使 用料等
	遺跡見学会費	150,000	185,630	<b>▲</b> 35,630	貸し切りバス等/振込み手数料
	研 究 会 費	60,000	16,632	43,368	案内発送、研究会共催費、発表者 交通費
事業支出	遺跡調査報告会費	390,000	386,802	3,198	資料集印刷・発表者費用弁償・会 場使用料等
	会誌印刷費	950,000	646,596	303,404	第53輯 450部/振込み手数料
	だより印刷費	200,000	135,216	64,784	115号・116号・117号/振込み手 数料
	ホームページ費	50,000	290,064	<b>240,064</b>	ホームページのスマートフォン対応 化、プロバイダー料、維持管理費
	小 計	2,250,000	2,083,686	166,314	
	報償費(総会費)	50,000	50,000	0	学会奨励賞
	委員会費	150,000	142,080	7,920	運営委員会・編集委員会出席用交通費
	消耗品費	40,000	16,682	23, 318	文房具代・コピー代・賞状・筒
事務支出	通信費	200,000	157, 123	42,877	会誌・だより発送費・葉書切手代 金等含む
	賃 金	100,000	47,000	53,000	会誌・だより等の発送・その他事務処理
	小 計	540,000	412,885	127,115	
特別支出		20,000	0	20,000	
基金積立金		60,000	60,000	0	60周年用積立金
予 備 費		220,000	0	220,000	
슴 計		3,090,000	2,556,571	533,429	

## 2016年度北海道考古学会基金会計

項 目		費目	支出額	基金積立額	基金総額	備考
		名取氏寄付金		420,000	420,000	
		石川氏寄付金		320,000	740,000	
		佐藤氏・斉藤氏寄付金		100,000	840,000	
		北構保男氏寄付金		20,000	860,000	平成17年 5 月29日10,000円送金 平成18年 3 月22日10,000円入金
基金	金	宮下正司氏寄付金		10,000	870,000	平成20年3月31日10,000円入金
		臨時積立金		200,000	1,070,000	
		50周年記念研究大会積立金		250,000	1,320,000	2012年度積立
		保存対策費積立金		100,000	1,420,000	2012年度積立(過年度支出分補填)
		保存対策費積立金		100,000	1,520,000	2013年度積立(過年度支出分補填)
		60周年記念研究大会積立金		120,000	1,640,000	2015年度積立開始(年60,000円)
	合	計			1,640,000	
		南茅部町埋蔵文化財調 査団事務所被災支援金	77,000		1,563,000	
過年度支出	ы	鷲の木5遺跡保存対策費	160,000		1,403,000	2003年度支出
迥牛及又:	끄 [	鷲の木5遺跡保存対策費	60,000		1,343,000	
		40周年記念研究大会費	240,000		1,103,000	2003年度支出
		50周年記念研究大会費	250,000		853,000	2013年10月支出
	合	計	787,000			
		基金。	浅 高		853,000	

# 3号議案 北海道考古学会が発行する印刷物に掲載した論文等の著作権について

## (1) 趣 旨

現在の規則では、本会が発行する印刷物の著作権について規定されておらず、ホームページなど の電子的転載についても対応できない状況となっていることから、これについて規定する。

#### (2) 規則条文

2-6 北海道考古学会著作権に関する規則

(目的)

第1条 本会が発行する『北海道考古学』・『北海道考古学会だより』・『研究大会資料集』・『遺跡報告会資料集』他、印刷物等に掲載した論文等の著作権について定めることを目的とする。

(著作権の所在)

第2条 前条に規定する印刷物等に掲載した論文等の著作権は著者に、編集著作権は本会にそれぞれ帰属する。

(電子的公開・復刻など)

第3条 本会ホームページ等での電子的公開、また掲載誌等を復刻・再刊等をする場合は、投稿時点で著者の承諾を得たものとする。

本会が電子的公開・復刻等をする場合、著作料は支払わない。掲載原稿の転載にあたっては必ず本会の承諾を得ること。また、転載は原則として1年間は行わないこと。なお、他の出版物から図・表を引用する際に転載許可等が必要な場合には、著者の責任において行うこと。

附則 この規則は、2016年4月30日より施行する。

# 2016年度研究大会報告 「北海道における近現代考古学の今後」

2016年度研究大会は、4月30日(土)に登別市及び登別市教育委員会と共催で、登別市民会館で開催された。2006年の森町での開催以来、10年ぶりの札幌市以外での開催である。参加者は、会員43名、一般参加者77名、合計120名であった。

本大会は「北海道における近現代考古学の今後」と題し、これまでに道内で行われた近現代を対象とした発掘調査事例や研究成果の発表が行われた。田才雅彦氏には、道内各地の遺跡の保護に携わってきた経験を踏まえて、道内における近現代遺跡の調査の動向や今後の課題について発表をお願いした。石渡一人氏、菅野修広氏、野村祐一氏には、それぞれの地域で調査した近現代遺跡の事例について発表をお願いした。黒尾和久氏には、近現代遺跡の調査における考古学的手法の有用性と、当事者やその記憶を引き継ぐ人がいる時代を対象とする際の研究の在り方について発表をお願いした。

田才氏は、城館跡や陣屋跡、漁場関係、寺院跡、駅逓所、開拓使本庁舎跡・屯田兵屋跡などが史跡として整備・活用される一方、江戸時代の開削道や番屋跡など、未指定の文化財が徐々に失われつつあることを指摘され、箱館奉行所から太平洋岸を経由して国後・択捉へ至る「東蝦夷地の道」や、北前船に代表される「海の道」、松浦武四郎も大いに利用した「川の道」など、単体の史跡や文化財としての評価だけでなく、線や面での保存・活用の可能性を述べられた。





また、太平洋戦争などの戦争遺産については、いまだに保存の是非を問題とする意見もあるが、早急に保存策を講じる必要のある遺跡が多いことから、地域ごとに可能な範囲で保存・活用を進めて欲しいとの提言があった。「古い」ことが価値として主張しやすい先史時代の遺跡と異なり、「新しい」遺跡をい

かに保護・研究するかという問題について、地域の歴史を語る資産として、また単独でその価値を主張 しがたいものを東ねてその価値を示す手法は、歴史文化基本構想をはじめ、日本遺産や世界遺産へと結 びつくもので、その実例と可能性が示されたことは、今後の活用を考える上で興味深い話であった。

石渡氏からは、自身が調査に携わった別海町野付通行屋跡遺跡と、今後史跡整備の中で調査が予定されている史跡旧奥行臼駅逓所の事例が紹介された。野付通行屋跡遺跡の事例は、発掘調査の成果に加えて、文書や絵図を駆使した調査は、歴史時代の調査として定番の手法ではあるものの、北海道では数少ない事例である。また、史跡奥行臼駅逓所の試掘調査では地業の違いにより明治・大正期、昭和期の増築を区別できる可能性が示され、解体時に行われる詳細調査を期待させる成果となった。

菅野氏からは、伊達市有珠善光寺2遺跡の事例が紹介された。今回発表された北海道の事例では唯一緊急調査の成果である。19世紀から20世紀にかけての送り場からゴミ穴への廃棄形態の変化、また廃棄対象の変化が、アイヌを取り巻く社会情勢の変化と関連することを示された。道内では近現代の遺構・

遺物が報告されている事例こそ多いものの、近 現代を主たる対象とした緊急調査は未だに少な く、調査成果を研究にまで昇華させた数少ない 事例として注目されるものであった。

野村氏からは、稜堡式城郭として世界的にも 著名な特別史跡五稜郭跡について、その調査の 歴史と成果、整備について紹介された。箱館戦 争の舞台としてあまりも有名であるが故に、奉 行所としての役割が忘れられがちな遺跡であり、 その奉行所庁舎復元を契機に、中枢部が調査され、豊富な出土品や情報が体系的にまとめられ たことは大変興味深いものであった。





# 遺跡見学会のご案内

毎年恒例の遺跡見学会、今年度のテーマは視点を変えて「地表面からわかる遺跡」をテーマとして、よりディープな考古学の魅力をお伝えいたします。発掘調査中でなくても、地表面の状況から情報が得られる遺跡について、詳しい解説を聞きながら遺跡内を散策します。

だれでも立ち入れる場所であっても、解説がなければ気づきにくい遺跡を知ることによって、より関心が深まることでしょう。この機会でなければ、見て知って分かることが難しい遺跡の見学ですので、是非ご参加ください。そのほか、恵庭市郷土資料館(特別展開催中!)の見学、北広島市エコミュージアムセンターや北海道大学総合博物館(リニューアル!)などの見学も行います。こちらも魅力的な資料を見学することができます。

主 催 北海道考古学会

**期 日** 8月27日(土) 雨天決行

集合場所 札幌駅東通り北口 (観光バス乗り場前) 集合時間9:00

**見学コース** JR札幌駅北口(9:00)

⇒午前:千歳市(史跡キウス周堤墓群)・恵庭市(恵庭公園遺跡・郷土資料館)

⇒昼食:未定

⇒午後:北広島市 (エコミュージアムセンター)・北海道大学総合博物館

\*なお、天候・道路・現場の状況により行程を変更する場合がございます。 予めご了承下さい。

参加費用 大人4,000円、中学生以下2,000円 (バス代、入館料、保険料込み)

\*当日申し受けます。

\*別途、昼食を注文することができます。1,000円の予定です。

申し込み時に「昼食希望」と明記してください。

募集人数 先着順45名(予定)

申込方法 往復葉書かメールで。<u>電話受付は致しません</u>。申込受付後に受付確認をいたします。確認 連絡がない場合はご連絡ください。

①往復葉書の場合

< 往信部表面 > 〒059-0014 登別市富士町 7 丁目33-1

登別市教育委員会 社会教育グループ気付

< 往信部裏面 > 郵便番号、住所、氏名(同行者名も)、自宅電話番号、携帯電話番号

<返信部表面>返信用の郵便番号・住所・氏名

<返信部裏面>何も記入しないでください。

②メールの場合

hokkaidokoukogakkai@yahoo.co.jpに郵便番号、住所、氏名(同行者名も)、自宅電話番号、携帯電話番号を記入し、送信してください。

**申 込 期 限** 8月22日(月)必着。

キャンセル メールか電話 (下記問い合わせ先まで)

問い合せ先 月~金の18:00~20:00のみ。

見学会担当 鈴木 (090-5079-6141)・坂梨 (090-2251-4257) まで。

服装・お持ちいただくもの

昼食を注文されない方は、昼食を持参してください。

雨具は各自持参してください。また、**歩きやすい服装・靴**でお越しください。 帽子、飲み物、常備薬、虫よけ、筆記用具等お持ちいただくことをお勧めいたします。

# 北海道考古学会賞・北海道考古学会奨励賞の募集ついて

北海道考古学会規則第5号にもとづき、下記の要領で北海道考古学会賞・北海道考古学会奨励賞の候補者を募集します。

#### 1. 北海道考古学会賞

趣旨:北海道およびその周辺地域の考古学(関連学問分野をふくむ)の研究、もしくは北海道考古学会の発展に大きく貢献した会員または団体の功績を称える。

候補者の要件:北海道およびその周辺地域の考古学(関連学問分野をふくむ)の研究、もしくは北海道 考古学会の発展に大きく貢献した会員または団体(所属会員の有無を問わない)。

#### 2. 北海道考古学会奨励賞

趣旨:北海道およびその周辺地域の考古学(関連学問分野をふくむ)の研究に大きく貢献した若手研究者の研究活動を奨励する。

候補者の要件:北海道およびその周辺地域の考古学(関連学問分野をふくむ)において優れた研究を行い、将来の発展に貢献すると期待される満40歳未満(受賞年の4月1日現在)の会員。

## 3. 応募・選考方法(北海道考古学会賞・同奨励賞とも)

- (1) 自薦および他薦とする。
- (2) 締切 2017年1月30日(必着)。
- (3) 所定の応募用紙を学会ホームページからダウンロードし,学会事務局あてに郵送もしくは電子メールで送付する。

【送付先】北海道考古学会事務局

〒059-0014 登別市富士町7丁目33-1 登別市教育委員会 社会教育グループ気付

【電子メールアドレス】 hokkaidokoukogakkai@yahoo.co.jp

(4) 北海道考古学会賞選考委員会(副会長、運営委員2名、一般会員2名から構成)が、応募書類を もとに各賞の趣旨に沿って業績を総合的に判断して選考する。

#### 4. その他

- (1) 北海道考古学会奨励賞受賞者に授与される研究奨励費は5万円とする。
- (2) 受賞式出席にともなう交通費は支給しない。
- (3) 応募書類は返却しない。
- (4) 個人情報は、各賞の選考以外の目的で使用しない。
- \*学会賞の規則については「だより」109号およびホームページを参照ください。

# 月例研究会のお知らせ

下記の日程で開催予定です。詳細は随時ホームページでお知らせします。多くの方々のご参加をお待ちしております(事前申し込み不要・参加費不要)。会員の皆様で月例研究会での発表を希望する方は、北海道考古学会事務局(hokkaidokoukogakkai@yahoo.co.jp)までご一報ください。一回で2~3名まで発表可能ですので、既に発表がエントリーされている日程でもお気軽にお申し出ください。

【第2回】(終了) 2016年7月9日(土) 15:00~

北海道大学 人文·社会科学総合教育研究棟 5 階 W517教室

大島直行(北海道考古学会) 松木武彦著『美の考古学』を読む(2)

【第3回】2016年9月17日(土) 15:00~

北海道大学 人文·社会科学総合教育研究棟 5 階 W517教室

種市幸生(北海道教育委員会) キテの源流について

【第4回】2016年10月15日(土) 15:00~

北海道大学 人文·社会科学総合教育研究棟 5 階 W517教室 報告者未定

【第5回】2016年11月19日(土) 15:00~

会場未定 (北海道大学を予定)

瀬川拓郎(旭川市博物館) サハリンアイヌのミイラ習俗

【第6回】2017年1月21日(土)15:00~

会場未定(北海道大学を予定)

報告者未定

【第7回】2017年2月18日(土) 15:00~

北海道大学 人文·社会科学総合教育研究棟 5 階 W517教室 報告者未定

【第8回】2017年3月18日(土) 15:00~

北海道大学 人文・社会科学総合教育研究棟 5 階 W517教室 佐藤亜美(東北大学大学院) タイトル未定

このほか、卒論・修論発表会を予定

※内容などの詳細は、決定次第、北海道考古学会ホームページでお知らせいたします。

※会員の皆様で、月例研究会での研究発表を希望する方は北海道考古学会事務局までご一報ください。

(hokkaidokoukogakkai@vahoo.co.jp)

# 会誌編集委員の選任について

会誌編集委員会の委員の辞任に伴い、関係する規程に基づき下記の通り新委員が選任されました。

#### 会誌編集委員

辞任 1号委員 石橋孝夫 新任 1号委員 高橋 理

# 会誌の「投稿規定・原稿体裁」が新しくなります

今年度の総会で「第3号議案 北海道考古学会が発行する印刷物に掲載した論文等の著作権について」が承認されました。これは著作物の電子的公開が急速に進む現在、執筆者の著作権と、北海道考古学会の編集刊行物に対する権利(版権)の範囲を明確にし、双方の権利を保障するとともに、学術的成果の普及・活用に処するためです。これを受けまして、本会では、投稿に先立ちこれらの権利を執筆者にご確認頂くため、「投稿規定」に掲げることと致しました。

合わせまして、「原稿体裁」に関しましても、インターネット環境の普及に伴う電子著作物の引用法に関する指針を示す必要が出てきていること、また旧来の「体裁」細則に不足の部分もあることから、新たな規定を設け、「原稿体裁」の充実を図ることと致しました。次号、第53輯から適用となります。新「投稿規定・原稿体裁」は、ホームページならびに会誌(53輯から)にてご覧頂けます。

投稿に際し、「投稿規定・原稿体裁」に従った原稿を作製するのは投稿者の基本的マナーであり、査読、編集作業の円滑な進行にも直結しますことから、投稿をご希望の皆様には、改めて「投稿規定・原稿体裁」の遵守をお願い申し上げる次第です。

(会誌編集委員会)

# 新入会員のお知らせ

大久保 強 (札幌市)、木戸 奈央子 (石狩市)、佐藤 亜美 (札幌市)、白石 勝士 (北斗市)、 藤田 慎也 (札幌市)、渡邊 つづり (豊浦町) \*敬称略、五十音順

# 会費納入についてのお願い

会の運営には、会員の皆様のご協力が不可欠です。会費の年内納入にご協力いただきますようお願い申し上げます。また、本年度を除く過去3年以上の会費が納入されていない会員には、北海道考古学会誌を送付しておりません。会費納入を確認後、送付いたします。

郵便局口座番号:02770-6-8358 加入者名:北海道考古学会

年会費: (一般) 5,000円 (学生) 3,500円

## 会誌編集委員会からのお知らせ

#### 会誌第53輯への投稿について

『北海道考古学』第53輯(2017年3月刊行)は「縄文貝塚」特集を予定しています。一般の投稿も受付けますが、紙幅の都合で第54輯以降の掲載となる場合があります。予めご了承ください。

投稿を希望する方は、編集の都合上、10月28日(金)までに会誌編集委員会事務局まで連絡をお願いいたします。

投稿規定および原稿の分量・体裁等は、学会ホームページをご参照ください。会誌の質を維持するためにも、新「投稿規定・原稿体裁」の厳守をお願いいたします。

原稿締め切り日 2016年12月20日(火)(必着)

会誌編集委員会事務局 〒069-8555 江別市文京台11

札幌学院大学 臼杵研究室

TEL : (011)386-8111 (代表)

E-mail: usu@sgu.ac.jp

北海道考古学会だより 第115号 2016年7月28日 発行

発行所 北海道考古学会 (ホームページ: http://haa.main.jp/cms/index.html)

事務局: 〒059-0014 北海道登別市富士町7丁目33-1

登別市教育委員会 社会教育グループ気付 北海道考古学会事務局

TEL : (0143)88-1129 FAX : (0143)85-9744

E-mail: hokkaidokoukogakkai@yahoo.co.jp

印 刷 北海道図書企画 (011)668-1131